

2012 年 11 月 28 日  
Zero Mercury Working Group<sup>1</sup>

## 魚介類の水銀汚染に関するウェビナー開催のお知らせ

2012 年 12 月 4 日、ゼロマーキュリーワーキンググループ（Zero Mercury Working Group）は、米国の生物多様性研究所（Biodiversity Research Institute）の科学者及び著名な科学者らの協力を得て、魚介類の広範な水銀汚染を示す新たな報告書を発表するとともに、つい数年前までは“安全”であると考えられていたレベル以下でもメチル水銀の健康影響があることを示す最近の研究を要約するために国際的なウェビナーを開催します。

科学者らは新たな研究を示し、なぜ、現在の政府の“安全基準”は、世界中で強化されるべきであるのかについて説明します。その報告書は 2012 年 12 月 4 日にプレスリリースとともに発表いたします。これは、2013 年 1 月に開催が予定されている国際水銀条約のための国連交渉の最終協議に先立って行なわれるものです。

### ウェビナーの参加科学者

Dr. Philippe Grandjean：デンマーク。サザーン・デンマーク大学環境医学部教授・議長。デンマーク国家健康委員会顧問。ハーバード大学公衆衛生校教授。同博士は、1980 年代の後半に生まれたメチル水銀の曝露を受けた 1000 人のフェロー島の子どもたちを調査した。

Dr. David Evers：アメリカ。メイン州にある非営利生態学研究団体である生物多様性研究所（Biodiversity Research Institute）主席科学者。同博士は国連環境計画の運命と移動（Fate and Transport）パートナーシップのメンバーである。BRI は、野生生物と生態系に於ける水銀の曝露と影響を理解するために設計された研究のリーダーである。

Dr. Takashi Yorifuji（頼藤貴志）：日本の医師であり疫学者。岡山大学医学部准教授。ハーバード大学で博士研究員を務めた。同博士は、水俣病を研究し、日本におけるメチル水銀曝露の長期的な影響に関して広く発表を行なっている。

Dr. Edward Groth III：アメリカ。1979 年から 2004 年まで消費者連盟（Consumers Union）で環境健康問題に取り組み、現在はニューヨーク州ストーニーブルック大学にある水銀研究と支援のための Gelfond 基金で顧問を務めている。最近、同博士は魚類中のメチル水銀のような問題に関して WHO と FAO に助言し、Groth Consulting Services を運営している。

### ウェビナー開催要領

2012 年 12 月 4 日午後 16 時 30 分（日本時間）（午前 8 時 30 分（ブリュッセル時間））

ウェビナー参加ご希望の方は、メールで

安間 武（[ac7t-ysm@asahi-net.or.jp](mailto:ac7t-ysm@asahi-net.or.jp)）又は

Rachel Kamande（[rachel.kamande@eeb.org](mailto:rachel.kamande@eeb.org)）

まで連絡ください。

ウェビナーへのアクセス方法をお知らせいたします。

<sup>1</sup>Zero Mercury Working Group  
<http://www.zeromercury.org/>